
■□ 2021 年 3 月 10 日 NO. 204

C | A | R | E | E | R | ウ | オ | ッ | チ | ャ | ー |

◆◇◆ トピックス/ 協会主催特別セミナー（ライブ配信）

メルマガ 200 号発行記念セミナー・前半

人生 100 年時代の人材育成

～教育現場と採用現場、バトンは渡っているか！～

協会発足と時をほぼ同じくして、2004 年から 16 年の長きに渡り毎月配信され続けた【Career ウォッチャー】も昨年 11 月で 200 号を迎えました。これを記念して 2/16（火）にライブ配信されたセミナーですが、あっという間に定員（1,000 名）に達するお申込みをいただき、事務局一同大変嬉しく思っています。今回は簡単ではありますが、2 回に分けてセミナーの様子をレポート致します。

★★★

まずは、メルマガ編集長・網野千文からのメッセージです。

16 年の間に、メルマガの取材を通じてキャリア支援者である多くの仲間に出会いました。どう生きていくのかを考え、学ばせ、実践させる教育現場の皆さんと、働くことを通じてどう生きるかに取り組む企業現場の皆さん…。両者のお話を聞けば聞くほど、その繋がりはどうなっているのか、そもそも目指すところは一致しているのか、今現場では一体何が行われているのか、特に教育現場はどうなっているのか、それを知りたいという思いが強くなっていました。今回のテーマが生まれた背景はそこにあるのですが、タイトルにある“バトンとは何なのか”、“バトンを渡すとはどういうことなのか”、私自身まだ明確な答えを持っているわけではありません。このセミナーをきっかけにバトンを渡す側、受け取る側、お互いの状況への理解が深まり、より良き対話が盛り上がっていくことを願っています。

◎セミナープログラムのご紹介（2 時間）

■はじめに

網野千文（キャリアカウンセリング協会 講師・メルマガ編集長）

■ミニセミナー

山下真司さん（リクルートマーケティングパートナーズ「キャリアガイダンス」編集長）

■教育の現場から

永井哲明さん（中村中学校・高等学校前校長/キャリア部門長）

川澄 勤さん（自修館中等教育学校 進路情報室長）

井波祐二さん（東京都立豊多摩高等学校教員）

住田暁弘さん（東京都市大学キャリア支援センター部長）

■企業の現場から

矢上雅美さん（シオノギキャリア開発センター株式会社 社長室 専任課長）

久保田美紀さん（スターバックスコーヒージャパン株式会社 人事本部
本部長）

当日は上記の方々から現場での取組について現状と問題提起がなされました。山下さんを除きお一人 10 分というタイトなお時間であったにも関わらず、豊富な情報提供、ユニークな挑戦の数々に喜びと驚きの声とともに、もっと詳しくお話を聞きたいという感想を多くいただいております。ここではその様子を簡単ではありますが、お伝えできればと思います。

★★★

■ ミニセミナーより

入社以来 30 年以上に渡って、大学生の就活支援、高校生の進路選択などキャリア（教育）をテーマに活動されている山下さんのミニセミナーは、20 分という限られた時間の中で 40 枚ものスライドを使って「高校におけるキャリア教育の取組の今」についてご説明くださいました。

冒頭は、世界 9 か国の 18 歳に対する「社会や国に対する意識調査（＊）」の結果から始まります。「自分を大人だと思うか」「自分は責任がある社会の一員だと思うか」「自分で国や社会を変えられると思うか」といった質問に対する回答がすべてダントツで最下位の日本の若者。さらに衝撃的なのは「将来は良くなると思うか→中国（96.2%）、インド（76.5%）」に対して「日本（9.6%）」。

そればかりか悪くなると考える若者が 4 割近くおり、この国の役に立ちたいとは思わないというスコアは 9 か国中トップ。私たち大人はこの結果をどう考えたら良いのでしょうか、と山下さん。前置きにしてはかなり衝撃的でした。

一転して、日本の高校生の進路指導の課題について触れ、その第一位は「進路選択・決定力の不足」だと言います。「うちの生徒は、まじめで素直で、おとなしいんですね…」これは先生から良く聞く言葉とのこと。…では本当に高校生は従順で言うことをきくばかりの子たちなののでしょうか。このコロナ禍においても自分に何ができるのかを考え、自ら行動を起こしている高校生は

たくさんいます。行動を起こす高校生とそうではない高校生、その違いはどこから生まれるのでしょうか。

では文科省はこの状況をどのように変えようとしているのか、新しい学習指導要領をわかりやすくみ砕いてご説明くださいました。学力の捉え方が変わってきていること、大学入学共通テストの導入の背景、探求という名称のつく教科が6つもあり「総合的な学習の時間」から「総合的な探求の時間」へと変わること、などなど。どうやら「主体的な学び」の実現に向けて動いているようです。自ら「問い」を立てその解決に向けて動くことをどのように高校の授業に落とし込んでいけば良いのか、本当に高校現場は激変しようとしています。

一例として「めんどうくさい、たいへん、やりたくない、わからない」とやる前から諦めてしまう生徒をどうやって鼓舞し、変容させていくのか。岩手県立大船渡高校の総合的な探求の時間「大船渡学」や和歌山県立桐蔭中学・高校「桐蔭リーダー塾」など興味深い取り組みをお話くださいました。

また、こうした取り組みはやりっぱなしで終わらず、多角的な評価、定性的な評価、自己認識できるようなポートフォリオを振り返りながら、自己肯定感を深めていくことが大事だと指摘されます。そして、話題は2020年度から小中高で全面実施されているキャリア・パスポートについても触れておられました。この発想は一人の人間のキャリア成長を一貫して支え続ける“バトン”を可視化したものではないかと思いました。さらに今後の課題として挙げられたことは、すでに96.6%の高校で実施されているキャリア教育だけれど、総合的な学習の時間やホームルームだけでなく、教科の中でなぜこの教科を学ぶのかに繋げていけるかにあるとのことでした。このように変化を求められる教育の現場で先生方はどうされているのかが気になりましたが、山下さんも課題の一つに教員の負担について挙げておられました。それについては現場という事でバトンを渡されました。

先ずは教育の現場4名の方にバトンが渡されましたが、続きは次号でお伝えしたいと思います。

(*) 18歳意識調査「第20回 社会や国に対する意識調査」(日本財団 2020/1/30) 9か国の内訳は、日本・中国・韓国・インド・ベトナム・インドネシア・イギリス・アメリカ・ドイツ

***** 編集後記 *****

編集後記でも以前ご紹介したことがある、ブレディみかこさんが朝日新聞の
コラム「10代の君へ」の中で、自分の人生を決めるきっかけとなった高校の先
生の言葉について触れていました。福岡の名門高校に通っていた彼女曰く「エ
リートっぽい雰囲気と同級生が多く、貧乏で家庭環境が複雑だった私は、浮い
た存在だった（中略）定期代を稼ぐために禁止されているバイトをしていたのが
ばれた時に、教師から『今時、そんな貧しい家があるのか。遊ぶ金欲しさだろう』
と一蹴されてその後は反抗的な態度をとるようになり、問題児となった」。そん
な彼女に向き合い、居場所をくれたのが現代国語を教える2、3年次の担任の
先生でした。「たくさん本を読み。君は、ものを書く人になるといい」。その先生
の言葉がまさに彼女をライターの道へと導いたのです。

先日のセミナー（＊）の話者のお一人、自修館中等教育学校の川澄先生も
「これからの教師は教える人ではなく、生徒の学びに介入していく人になるのだ。
それは生徒の自主性を如何に引き出していくかに尽きと思う」と仰っていまし
た。目の前にいる集団を相手にするのではなく、一人一人に向き合うことが大
切にされる時代が来るのだと思うと未来に希望を持てる気がして、嬉しくなりま
す。

学生時代は社会との接点が狭いと思われがちですが、親、先生、バイト先の
店長、先輩、街で出会う人々など社会との媒介をしてくれる存在は少なくはあり
ません。その関わり方が大事なのだと思います。キャリアガイダンス編集長の
山下さんが説明してくれた日本の18歳の意識調査結果はまさに衝撃でした。
日本社会の一員として、一人の大人として、若い人達に自分は何ができるのか
を改めて考えるきっかけをもらったと思っています。皆さんはいかがお感
じでしょうか。

網野千文

（＊）メルマガ200回記念セミナー「人生100年時代のキャリア教育～教育現
場と採用現場、バトンは渡っているか」

次号 No 205 は 4 月 12 日です

#####

◆◇ メルマガへのご意見・ご感想は下記メールアドレスにてお待ちしております。
E-mail : info@career-npo.org

◆◇ G C D F 資格者の皆様に『マイページ』を提供しています。受講した継続
学習の履歴を閲覧・入力できます。又、マイページでは「お役立ち情報」「海外
からのメッセージ」「メルマガバックナンバー」等様々な情報を掲載しています

ので、是非ご活用ください。

◆◇ G C D F 継続学習や国家資格更新講習、各種セミナーの情報は下記に掲載されています。

<https://www.career-npo.org/learning/>

* * * * * ☆S☆T☆A☆F☆F☆ * * * * *

♪♪ 発行人：藤田 真也

♪♪ 編集長：網野 千文

♪♪ 編集スタッフ：和田はるか 井出典子

♪♪ 発行：特定非営利活動法人 キャリアカウンセリング協会

注) このメールに掲載された記事を許可なく転載することを禁じます。